中学校
1年

絵文字作りに挑戦しよう

枚方市立枚方中学校

教科	美術	単元名	文字っておもしろい

本時のねらい

絵文字の意味を理解し、目的や場面に合った絵文字作りができる。

本時における１人１台端末の活用方法とそのねらい

授業支援ソフト（ミライシード）から配信したワークシートに、子どもたち自身が手がきで入力することで、絵文字の意味や働きへの理解を深める。
教員はライブモニタリング機能で生徒の様子をリアルタイムで確認することができ、生徒の理解度や進捗を瞬時に把握することができ、必要な支援を適宜行う。
実際に絵文字を作成する活動の中で、工夫の見られる生徒の作品を適宜紹介することで、多様な表現に触れさせ、実際の作品作りに生かす。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・タブレット PC　・プロジェクタ　・授業支援ソフト（ミライシード）

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 （5 分）	○本時のねらいを確認し、学習の見通しを持つ。 ○絵文字が持つ魅力や工夫について、卒業生の作品などを示しながら理解する。	・卒業生の作品を示しながら、視覚的な説明を加えることで、絵文字制作に対して具体的なイメージを持つことができる。
展開 （40 分）	○実際の制作に入る前に、課題を提示する。 ・文字の中に絵にできる漢字が含まれているか。 絵にできる漢字の一部分を丸で囲み、どのような絵で表現できるかを授業支援ソフト（ミライシード）に記入し、提出する。 ○自分の考えと友だちの考えを共有し、なぜ、そう考えたのかを話し合う。 ○友だちとの意見交流後、再び、絵文字として成り立つ漢字を記入し、提出する。 ○自分で漢字一文字を選び、絵文字のアイデアを考え、タブレットに記入する。	・授業支援ソフト（ミライシード）を活用することで、生徒の活動をリアルタイムで確認することができる。また、他の生徒の考えを、それぞれのタブレット PC で確認する。 ・授業支援ソフト（ミライシード）を活用することで、友だちの考えを一覧で確認することができ、話し合いの質を高めることができる。また、話し合いを通して、絵文字として成り立ちやすい漢字とそうでない漢字の違いについての理解を促す。 ・意見交流後に、再び授業支援ソフト（ミライシード）に考えを記入することで、交流前との考えの対比に気づくことができる。 ・タブレット PC に記入することで、創造したアイデアをいくつも保存したり、比較したりすることができる。 ・生徒の進捗をリアルタイムで確認することができ、個別の支援を行ったり、工夫の見られるアイデアをクラス全体で紹介したりすることができる。
まとめ （5 分）	○本時のねらいについて、気づいたことや考えたことなどを自分の言葉でまとめる。	

１人１台端末を活用した活動の様子

写真１：卒業生の作品を鑑賞し、イメージを膨らませている場面

写真２：授業支援ソフト（ミライシード）にアイデアをたくさん書き込み、絵文字を作成している場面

写真３：アイデアを一覧で共有し、それぞれの工夫について確認している場面

児童生徒の反応や変容

自分と友だちのアイデアを比較したり、工夫を紹介し合ったりすることで新たなアイデアが生まれる生徒が多くいた。描いた作品をクラス全体で発表することに恥ずかしさを感じている生徒もいたが、友だちから認めてもらうことで意欲的に作品制作に取り組む様子が見られた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

生徒たちの席が離れた状態であっても、容易に考えや工夫について交流したり、アイデアを共有したりすることができる点は、ICT の強みだと感じた。創造的に作品制作に取り組む場面を多く見ることができた。